

【復活のトロパリ 第3調】

てんに ある もの の た の しめ よ 、 ちに ある もの  
天 在 者 樂 の しめ よ 、 ちに ある もの  
よろこべ よ 、 しゅは そ の ひぢ の ちから を あら  
悦 主 其 臂 の 力 を 顯  
わ し て 、 し を も つ て し を ほろぼ し 、 ふ  
死 以 死 滅 ほろぼ し 、 ふ  
くかつ の は じめ と な り 、 われら を ちごく  
活 首 の は じめ と な り 、 われら を ちごく  
の は ら よ り す く い 、 せ か い に お お い な  
腹 救 い 、 せ か い に お お い な  
る あ わ れ み を た ま い た れ ば な り 。

【日本の亞使徒聖ニコライのトロパリ 第4調】

しとと ひとしく どうざな るもの 、 ちゅう  
使徒 等 同 座 の ちゅう  
じつに して しんち なる ハリストス の えきしゃ 、 せい  
實 神智 の ちゅう  
なるしんに えらばれた るふえ 、 ハリストス の あい  
神 撰 笛 の ちゅう  
にみちた るうつわ 、 わがくに の こう  
満 器 の ちゅう  
しょ うしや 、 あしとしゅきょうせ い ニコライ  
照 者 の ちゅう  
亞使徒主教 聖 の ちゅう

よ、なんぢのぼくぐんのた爲め、および  
爾羊群爲及

ぜんせかいのために、いのち命をた賜もうせい  
全世界爲爲生

さんしゃにいのりたまえ。  
三者祈給

【 日本の亞使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこ子とせいしんにき歸  
光榮父と聖神に歸す、

せいせいしやあしとせいニコライよ、わが  
成聖者亞使徒聖

くになんぢをたびびとおよびいほじんとうけ  
國爾旅人及異邦うじんとうけ受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
爾初我國於己

れをがいらいしやとしりたれども、ハリストスの  
外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
光暖流し、なんぢのて敵

きをぞくしんのことな爲し、かれらにか神  
屬神子爲

みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩寵 與 教會 建

たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今此教會 爲 祈

たまえ、けだしわれらそのしょしはなん  
 給蓋 我等其諸子爾

ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼我 善 牧者 慶

べよ。

【復活のコンダク 第3調】

いまもいつもよよに、アミン。  
 今何時 世世

じれんなるしゅよ、なんぢはいまはかよりふ復  
 慈憐 主 爾

くかつして、われらをしのもんよりのぼせ  
 活 我 等 死 門 升

たまえり。いまアダムはたのしみ、  
 給 今 樂

エヴァはよろこび、しょよげんしゃはれつそとと偕  
 歡 諸預言者 列祖

もにたえずなんぢのけんぺいのしんせい  
 絶 爾 權柄 神聖



司祭) ( 黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有

となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾

り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に

痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が

聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる

ものとなし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の

仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈

と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖

なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



### 【聖三祝文】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる聖  
じょうせいのものよ、われら等をあわれめよ。  
せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常生者我等をあわれ  
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖神聖勇毅  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常生者我等をあわれ  
 れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光榮父子聖神  
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸今何時世世  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常生者我等をあわれ  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖神聖勇  
 き、せいなるじょうせいのものよ、われらを  
 聖常生者我等を  
 あわれめよ。  
 懈

司祭) ( 黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 )

【 プロキメン  
 提綱 主日第3調 】

司祭) つつしきみて聽くべし、しゅうじんへいあん、

誦經) なんぢしんの神にも、

司祭) えいち睿智、

誦經) プロキメン、我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

わが神にうたいうたえよ、わ我がおううにうたいうたえよ。

誦經) 萬民よ、手を拍ち、歓の聲を以て神に呼べ、

わが神にうたいうたえよ、わ我がおううにうたいうたえよ。

誦經) 我が神に歌い歌えよ、

わ我がおううにうたいうたえよ。

【アポストロス  
使徒經 250 端 コロサイ書1章12節～18節】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴエルがコロサイ人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、我神父に感謝す、其我等を召して、諸聖徒と與に光明の業に分あらし

むるを以てなり。彼は我等を黑暗の權より拯いて、其至愛の子の國に遷せり、蓋我

らかれよ、そのちもつあがないおよつみゆるしえかれみべかみかたちに等彼に由りて、其血を以て、贖及び罪の赦を得たり。彼は見る可からざる神の像に

して、萬物の先に生れたる者なり。蓋萬物は彼に由りて造られたり、天に在る者、地

に在る者、見る可き者、見る可からざる者、或は寶座、或は主制、或は首領、或

は權柄、一切彼を以て、且彼の爲に造られたり。彼は萬物より先にして、萬物は彼

によりて立つ。且彼は其體たる教會の首なり、彼は元始にして、死の中より首めて

うま もの そのばんじ おい しゅ ため  
生れたる者なり、其萬事に於て首たらん爲なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。そして自らは、そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

\*\*\*\*\*

### 【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) なんぢ へいあん  
爾 に平安、

誦經) なんぢ しん  
爾 の神にも、

司祭) えいち  
睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) しゆ われなんぢ たの ねが われよよ はぢ え  
主よ、我爾を恃む、願わくは我世世に羞を得ざらん、



誦經) わ ため けんご かくれが われ つね かく え たま  
我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、

アリル イ ャ 、 アリル イ ャ 、  
ア リル イ ャ 。

司祭) ( 黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん  
め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ おそ  
の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を畏るる  
おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ おも か おこな  
畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行  
いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體  
との光 照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに  
こうえい けん いま いつ よよ  
光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

【 エヴァンゲリオン  
福音 經 ルカ福音書85端 17章12~19節 】

司祭) えいち つしお た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん  
睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、

なんぢ のしんに も。  
爾 神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 归  
はなんぢにきす。

司祭) つつしきかときあるむらいらいびょうしゃじゅうにんかれむかとおた  
て、聲を揚げて曰えり、イイスス夫子よ、我等を憐め。イイスス彼等を見て、曰えり、往き  
て、己を司祭等に示せ。彼等往く時潔まり。其中一人、己の愈されしを見て、返  
りて、大聲を以て神を讃榮し、イイススの足下に俯伏して感謝せり、彼はサマリヤの人  
なり。イイスス曰えり、潔まりし者は十人に非ずや、其九は何處に在るか、此の異族人

ほか いかん かえ こうえい かみ き またかれ い た ゆ なんぢ しん なんぢ  
の外、如何ぞ返りて、光榮を神に歸せざる。又 彼に謂えり、起ちて往け、爾の信は爾  
を救えり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは彼にもむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかつたか。ほかの九人は、どこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言わされた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

\*\*\*\*\*



しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい  
主 光 荣 爾 にき歸す。  
はなんぢにき歸す。

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ